



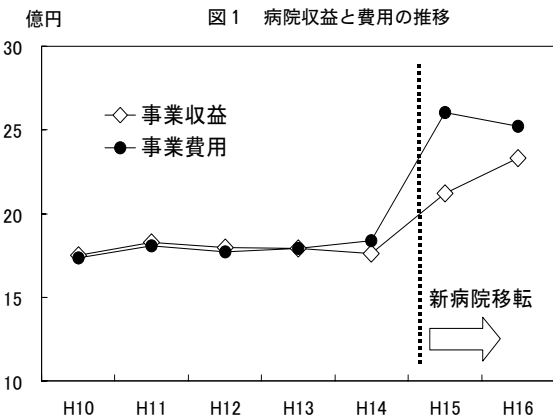
みなさまから選ばれ、満足していただける『美濃病院』を目指して

美濃病院が新築移転して2年2カ月が経ちました。新しい病院はどうなっているのでしょうか。財政状況は？ 診療体制は？ お医者さんの腕は？ みなさんに美濃病院の現状をお伝えします。

財政状況は？

財政状況の推移（図1参照）を見てみると、新病院に移転した平成15年から収益が急増傾向にあります。

平成16年度の決算見込みは、事業収益が23億3336万円、事業費用2億5050万円となります。



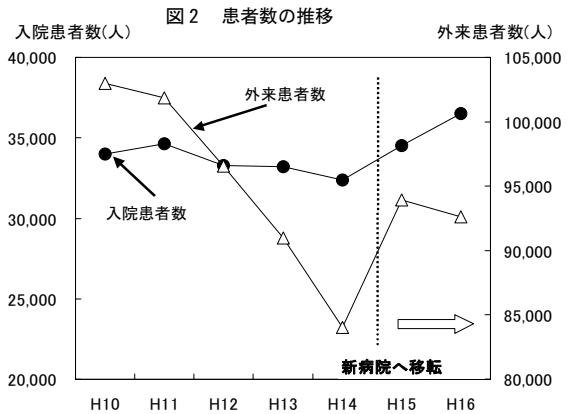
た。

新病院移転による減価償却費（約54億円を39年間で償却）による費用増が主因となり、1億8714万円の赤字となっています。（平成16年度減価償却費は3億5230万円）

移転直後である現時点では、費用が収益を上回っていますが、専門的な医療の広域展開による増収と、減価償却費の減少により、早期に黒字転換できる見込みです。

患者数は？

患者数の推移（図2参照）を見てみると、新病院移転を機に入院、外来共に増加傾向に転じています。平成16年度の延べ入院患者数は3万6493人（前年比6%増）となり、外来患者数は9万2609人（前年比1%減）となりました。



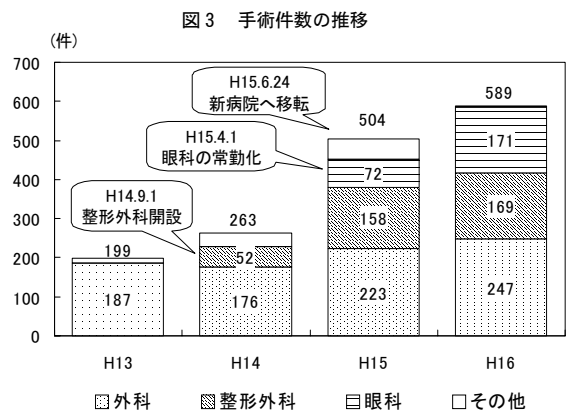
外来患者数は減少したものの、外来収益は9億9089万円となっており、前年より4629万円の増収になっています。

これは、地域の病診連携などによって、美濃病院が得意とする高度医療が発揮された結果と考えられます。

認められた実力

手術件数(図3参照)をみると、平成13年度で199件であったものが、整形外科、眼科の開設により16年度では589件と約3倍に増えています。

また、移転による最新機器の導



入などにより、高水準な手術も数多く行われています。

質、量ともに優れた実力を持つ美濃病院は日本外科学会、日本消化器病学会、日本整形外科学会、日本眼科学会の専門医制度研修施設などとして認定されています。

『内科』

この4月から診察医を6人から9人に増員し、午前の診察数を週14枠から17枠に増やしました。

また、外来受付を総合外来(全ての疾患)と専門外来(糖尿病・消化器・呼吸器・循環器)の2つに分け、内視鏡検査などの高度な医療を提供しています。



『外科』

内視鏡下外科手術などの高度な手術を行っており、胃、大腸、肝臓、胆のう、すい臓などの腹部臓器の病気を中心に大血管、肺までを対象とする幅広い診療を行っています。

また『静脈瘤』『乳がん』『痔疾患』の専門外来を設置して、より高度な専門医療を提供しています。

『整形外科』

この4月より常勤医を3名に増員し、午前の診察数を9枠に増やし、外来体制を強化。最新機器の導入により、脊椎や人工関節などの高度な手術が増えています。

『小児科』

咳や腹痛から、専門である小児



内分泌、糖尿病まで、成長・発達過程にある小児を幅広く診療しています。

『眼科』

めがね、コンタクトレンズの処方から緑内障の視野検査、網膜光凝固術、白内障手術など、幅広い診療を実施しています。

『その他』

そのほか、非常勤医による、産婦人科(月・木)、脳神経外科(水)、泌尿器科(水)、皮膚科(木)、耳鼻いんこう科(火・木)を開設しています。

新しい施設と有能なスタッフが皆様をお待ちしております。お気軽にご相談ください。

※美濃病院(☎033-1221)